

# 発掘された松本 2014

## 松本市遺跡発掘報告会



和田太子堂遺跡第2次調査



出川南遺跡第26次調査



松本城三の丸跡土居尻第5次調査

平成27年2月7日(土)  
時間：午後1時～4時10分  
会場：松本市時計博物館4階  
本町ホール

松本市教育委員会

# 発掘された松本 2014

～松本市遺跡発掘報告会～

## 次 第

平成 27 年 2 月 7 日（土）

	<b>司 会</b>	松本市教育委員会文化財課課長	内城 秀典
13:00	<b>開 会</b>		
13:00～13:05	<b>ご挨拶</b>	松本市教育委員会教育長	吉江 厚
13:05～13:15	<b>趣旨説明・平成 26 年発掘調査の概要</b>	松本市教育委員会文化財課係長	直井 雅尚
13:15～13:55	<b>事例報告① 和田太子堂遺跡第 2 次・ 三間沢川左岸遺跡第 8 次発掘調査</b>	松本市教育委員会文化財課	原田 健司
13:55～14:35	<b>事例報告② エリ穴遺跡 報告書刊行事業中間報告 ～縄文時代の祭りの場～</b>	松本市教育委員会文化財課	百瀬 長秀
14:35～14:45	<b>休 憩</b>		
14:45～15:25	<b>事例報告③ 松本城三の丸跡土居尻第 5 次発掘調査</b>	松本市教育委員会文化財課	竹内 靖長
15:25～16:05	<b>事例報告④ 井川城跡第 2 次発掘調査</b>	松本市教育委員会文化財課	熊谷 博志
16:05～16:10	<b>質 問</b>		
16:10	<b>閉 会</b>		
16:10～	<b>発表者による展示解説・質問（3 階企画展示室）</b>		

# 平成26年の発掘調査遺跡



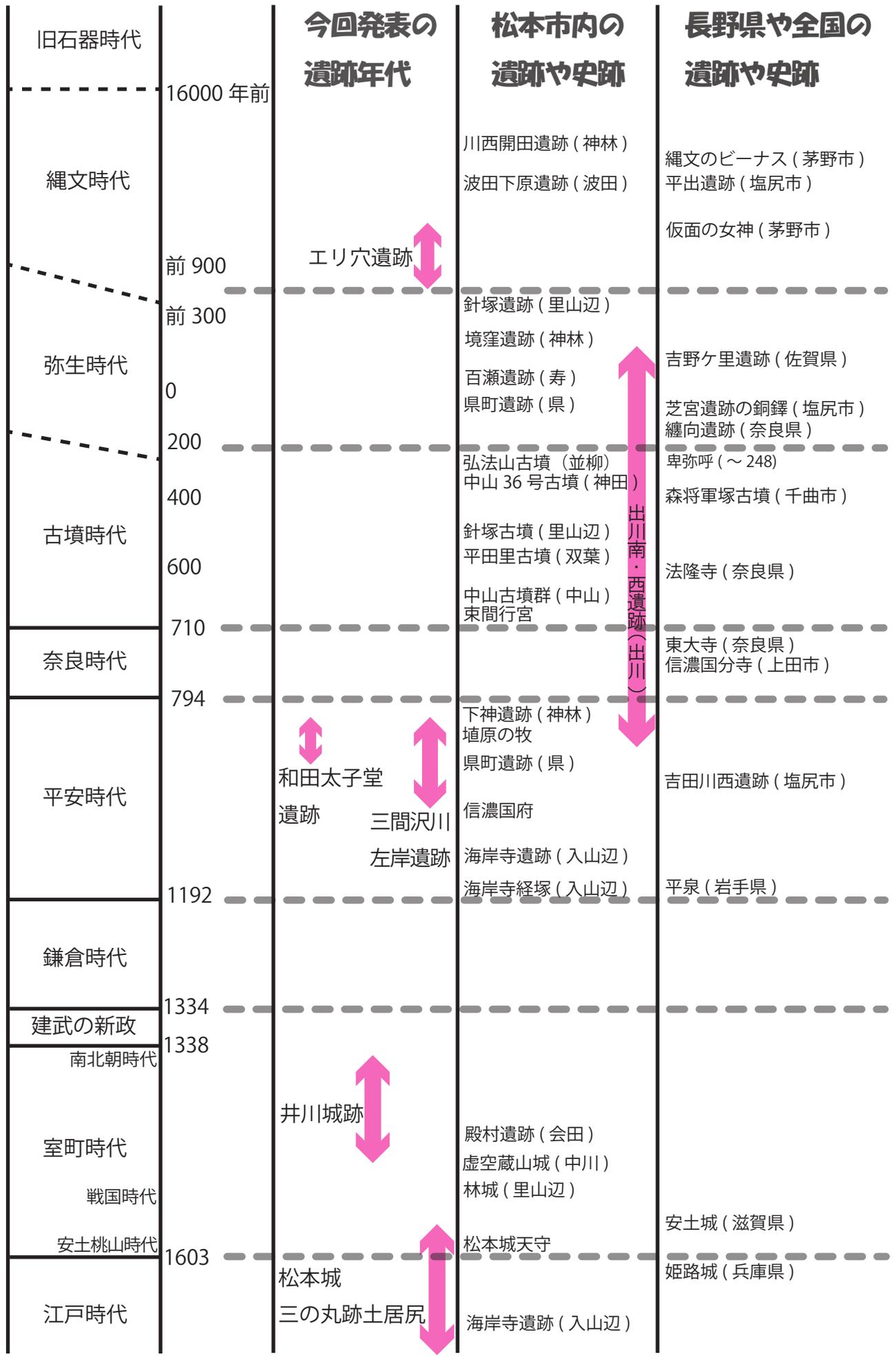
平成 26 年（2014 年） 埋蔵文化財発掘調査、報告書刊行一覧表

No.	遺跡・調査名	調査期間	調査面積	調査原因	時代	特徴・備考
1	アガタマチイセキ 県町遺跡第18次	2/12～3/24	308㎡	児童センター建設	弥生～平安時代・中世	集落跡
2	シバタ イセキ 芝田遺跡	2/26～3/24	69㎡	民間開発	縄文・平安時代	集落跡
3	イガワジョウウセキ 井川城跡第2次	4/14～継続中	約850㎡	遺跡整備事業	中世	城館跡
4	マツモトジョウサンノマルアト 松本城三の丸跡 ドイジリ 土居尻第5次	4/23～11/20	I～V検 のべ1,177㎡	松本城南・西外 堀復元等代替地	平安時代・戦国 ～近世	城郭・武家屋敷跡
5	イデガワミナミイセキ 出川南遺跡第24次	4/10～8/29	1,460㎡	県道建設	縄文～平安時代・中世・近世	集落跡、県埋蔵文化財センター調査
6	イデガワミナミイセキ 出川南遺跡第25次	5/1～9/1	647㎡	南松本福祉関係 複合施設建設	古墳・平安時代	集落跡
7	イデガワニシイセキ 出川西遺跡第11次・ イデガワミナミイセキ 出川南遺跡第26次	5/20～1/31	1,450㎡	市道建設	弥生・古墳時代	集落跡
8	イワオカヤカタアト 岩岡館跡	5/7～6/14	208㎡	水源地建設	中世	城館跡
9	ワダタイシドウイセキ 和田太子堂遺跡第2次  ミマザワガワ サガン イセキ 三間沢川左岸遺跡第8次	8/18～11/18	1,383㎡	市道建設	平安時代	集落跡・古代の 用水路
10	カイガンジ イセキ 海岸寺遺跡	9/1～11/11	5,200㎡	砂防えん堤設置	縄文・平安時代・中世・近世	県埋蔵文化財センター調査
11	タカバタゲイセキ 高畑遺跡第7次	5/19～継続中	約10,000㎡	土地区画整理事業	奈良～平安時代、中世	集落跡
12	トノムラ イセキ 殿村遺跡第5次	8/18～12/19	194㎡	遺跡整備事業	中世	中世遺構群
13	シナイイセキ カクニンテョウサ 市内遺跡確認調査	通年	—	試掘・立会	各時代	試掘
14	ハタ シモハラ イセキ 波田下原遺跡第3次 (報告書作成)	通年	—	県営畑地帯総合 整備事業	縄文時代	集落跡
15	イデガワニシイセキ 出川西遺跡第10次 (報告書作成)	通年	—	民間開発	古墳時代	集落跡
16	マツモトジョウウオオテモン マスガタアト 松本城大手門枳形跡 (報告書作成)	通年	—	多目的広場	近世	城郭跡
17	トノムラ イセキ 殿村遺跡第5次 (報告書作成)	通年	—	遺跡整備事業	中世	中世遺構群

開発工事等による市内遺跡試掘確認調査一覧（平成26年）

No.	事業者	所在地	原因事業	調査面積(m <sup>2</sup> )	遺跡との関係		遺構等の有無	検出遺構・遺物	備考	期間
1	民間会社	大手	老人ホーム	14.40	城下町跡(上土)・松本城跡(東総堀)	該当	なし	かく乱のみ		1月7日
2	個人	北深志	集合住宅	10.00	城下町跡(同心町)	該当	あり	平安遺物	現状保存	1月16日
3	民間会社	和田	土地売買	26.35	三間沢川左岸遺跡	該当	なし			1月20-24日
4	個人	大村	集合住宅	5.55	大輔原遺跡	該当	あり	平安遺物	現状保存	1月28日
5	個人	波田	個人住宅	28.72	葦原遺跡	該当	あり	縄文住居址	記録保存	1月29・30日
6	民間会社	岡田松岡	宅地造成	7.50	岡田松岡遺跡	該当	なし			2月3日
7	松本市	双葉	施設建設	45.50	出川南遺跡	該当	あり	遺構面2面、古墳土器	<b>本調査</b>	2月7・10日
8	個人	大手	個人住宅	4.55	松本城跡(三の丸)	該当	あり	近世整地層	現状保存	2月12・13日
9	個人	中央	個人住宅	7.80	城下町跡	該当	なし			2月26日
10	民間会社	笹賀	駐車場整備	21.20	大久保原遺跡	該当	なし			2月28日・3月3日
11	民間会社	筑摩	工場建設	30.60	筑摩南川原遺跡	該当	あり	縄文土器	現状保存	3月19日
12	組合	村井町南	土地区画整理	630.00	高畑遺跡・村井遺跡	該当	あり	古墳～中世遺構遺物	<b>本調査実施中</b>	3月25日-4月24日
13	個人	野溝東	集合住宅	11.20	野溝遺跡	該当	なし			4月3日
14	民間会社	波田北原	宅地造成	24.00	未確認		なし			4月10日
15	民間会社	中央	土地利用	30.90	城下町跡(中町)	該当	あり	整地層、陶磁器	開発未定	4月15-17日
16	民間会社	南松本	事務所	22.50	出川西遺跡	該当	あり	古墳遺構、遺物	記録保存	4月22日
17	松本市	埋橋	消防詰所	13.20	県町遺跡	該当	あり	土坑、土師器	現状保存	5月8日
18	民間会社	筑摩	宅地造成	12.00	筑摩遺跡	該当	あり	古墳遺構、遺物	現状保存	5月15日
19	民間会社	丸の内	土地利用	6.30	松本城跡(三の丸地蔵清水)	該当	あり	近世整地層、陶磁器	開発未定	5月20・22日
20	個人	島立	個人住宅	6.00	新村・島立条里的遺構	該当	なし			6月9日
21	個人	寿小赤	個人住宅	9.50	北起し遺跡	該当	なし	土坑(時代不明)		6月9・10日
22	松本市	埋橋	消防詰所	8.40	県町遺跡	該当	なし	再試掘		6月12日
23	松本市	四賀	運動広場造成	51.00	長居原遺跡	近接	なし			6月16-19日
24	民間会社	横田	宅地造成	6.60	宮北遺跡・横田遺跡	近接	なし			6月30日
25	民間会社	村井町北	宅地造成	18.00	高畑遺跡	該当	なし			7月3日
26	個人	開智	個人住宅	27.00	城下町跡(西町)	該当	あり	古代・近世遺構遺物	記録保存	7月8・9日
27	松本市	平田西	駐車場整備	22.50	平田本郷遺跡	該当	あり	平安遺物・ピット	現状保存	7月17日

No.	事業者	所在地	原因事業	調査面積(m <sup>2</sup> )	遺跡との関係		遺構等の有無	検出遺構・遺物	備考	期間
28	個人	旭	個人住宅	4.80	城下町跡 (天白東町)	該当	なし			7月22日
29	松本市	里山辺	林道開設	22.00	林山腰遺跡	近接	あり	中世遺物、造成層	本調査予定 範囲拡幅	7月28日-8月 11日
30	民間会社	丸の内	土地売買	42.50	松本城跡(三の丸 地蔵清水)	該当	あり	中世遺物、ピット、溝	開発未定	8月4-8日
31	個人	神田	共同住宅	1.40	神田遺跡	該当	あり	平安遺物・遺構	現状保存	8月19日
32	民間会社	村井町南	宅地造成	18.00	村井遺跡	該当	なし	溝(時代不明)		8月25日
33	民間会社	出川町	施設建設	13.50	出川南遺跡	該当	あり	古墳時代住居	現状保存	8月28日
34	民間会社	和田	事業所	42.00	波田下原遺跡	該当	なし			9月2日
35	個人	女鳥羽	共同住宅	7.60	岡の宮遺跡	該当	なし			9月2日
36	民間会社	笹賀	店舗建設	27.00	神戸遺跡	該当	なし	溝(時代不明)		9月4日
37	松本市	芳川	児童センター 増築	12.00	高畑遺跡	近接	なし			9月10日
38	民間会社	南松本	事業所	34.97	出川遺跡	該当	なし			9月18・22日
39	個人	寿北	共同住宅	9.80	向原遺跡	近接	なし			9月25日
40	個人	里山辺	個人住宅	5.10	新井遺跡	該当	あり	古墳遺物・包含層	現状保存	9月29日
41	松本市	県	市道改良	8.58	県町遺跡	該当	あり	古墳遺物・包含層	記録保存	10月9-16日 (継続中)
42	民間会社	寿小赤	店舗建設	24.00	寿前田遺跡	近接	あり	土坑、須恵器	現状保存 範囲拡幅	10月16日
43	松本市	中山	作業所	24.50	中山古墳群	該当	なし			10月20日
44	個人	神田	共同住宅	18.00	神田遺跡	該当	あり	土坑・古墳包含層	現状保存	10月31日
45	民間会社	新村	宅地造成	13.50	新村・島立条里的 遺構	該当	なし	ピット2基(時期不明)		11月6日
46	個人	里山辺	共同住宅	11.40	新井遺跡、 下原遺跡	該当	あり	古墳奈良遺物・ 遺構	現状保存	11月12日
47	団体	寿北	公民館建設	18.00	竹淵遺跡	該当	なし			12月8日
48	個人	波田	個人住宅	8.40	波田下島遺跡	該当	なし			12月15日
49	民間会社	横田	宅地造成	11.20	横田遺跡、 宮北遺跡	近接	なし			12月18日



事例報告①

みまざわがわさがん  
三間沢川左岸遺跡 第8次発掘調査  
わだたいしどう  
和田太子堂遺跡 第2次発掘調査

三間沢川左岸遺跡 第8次発掘調査

調査の概要

- ・所在地：松本市和田 3762-1 他
- ・原因事業：市道 7817 号線新設・改良事業
- ・調査面積：787 m<sup>2</sup>
- ・調査期間：平成 26 年 8 月 18 日～同 11 月 18 日

和田太子堂遺跡 第2次発掘調査

調査の概要

- ・所在地：松本市和田 3638 他
- ・原因事業：市道 7817 号線新設・改良事業
- ・調査面積：596 m<sup>2</sup>
- ・調査期間：平成 26 年 8 月 18 日～同 11 月 18 日



第1図 調査位置図

## 1 遺跡の概要

三間沢川左岸遺跡は、松本臨空工業団地の建設に伴い発見され、これまでに7度の発掘調査が行われています。標高640m前後の北東に緩やかに傾斜した地形に立地しています。当地が位置する和田を含め、松本市西部から梓川を上流にさかのぼった地域は、古代において筑摩郡大井郷と呼ばれていました。大井とは「大きな堰」を表しており、古墳時代の末期（7世紀中頃）から、西日本から高度な土木技術が伝来したことにより、水が得にくく未開発であった当地域に、大規模な水路が開削され、開発が始まったと考えられています。

当遺跡はそのなかでも、平安時代の前期（9世紀中頃）に成立したかなり有力な大集落でした。しかし、この大集落は150年間程しか続かなかったと考えられています。

遺物も緑釉陶器や中国から輸入された青磁や白磁、「長良私印」の銘がある銅印、青銅器の鏡・八稜鏡・海獣葡萄鏡片等、極めて希少なものが出土しています。このような特殊な様相から、付近にあったとされている初期荘園「大野荘（庄）」との関係性も考えられます。

## 2 過去の調査

三間沢川左岸遺跡は、昭和62年の最初の発掘調査では竪穴住居跡が130軒、翌年の2次調査では142軒と、2回の調査で大半が見つかっており、この地点が遺跡の中心であったと考えられます。多量の緑釉陶器や銅製品が出土し、同時期の他遺跡に比べて際立った違いを見せています。

また、3次調査や周辺の土地から縄文時代と弥生時代の土器や石器が採集されています。

過去の調査成果一覧表

調査次	調査年	調査面積	時代	成果
1	昭和62年	7,500 m <sup>2</sup>	平安時代 (9c 中頃～ 10c 後半)	竪穴住居跡130軒、掘立柱建物跡10棟、土坑7基、溝5本 緑釉陶器150点、墨書土器120点、越州窯青磁1点、石製・銅製帯飾り、銅印、銅鏡、銅鉈、皇朝十二銭
2	昭和63年	11,000 m <sup>2</sup>	平安時代 (9c 中頃～ 10c 後半)	竪穴住居跡142軒、掘立柱建物跡3棟、土坑13基（墓2基含む）、溝7本 緑釉陶器、墨書土器、石製・銅製帯飾り、銅鏡、銅鉈、皇朝十二銭
3	平成11年	380 m <sup>2</sup>	弥生時代 古墳時代 平安時代	土坑48基、ピット35基、溝5本 弥生土器（中期前半）、古墳時代前～中期 土師器、平安時代 銅製帯飾り
4	平成22・23年	11,740 m <sup>2</sup>	平安時代 (9c 中頃～ 10c 後半)	竪穴住居跡11軒、土坑88基、ピット171基、溝12本 縄文土器、墨書土器、緑釉陶器、鎌、刀子、不明銅板、石鎌、打製石斧、磨製石斧、砥石ほか
5	平成23年	7,900 m <sup>2</sup>	平安時代 (9c 中頃～ 10c 後半)	竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡1棟、土坑12基、ピット85基、溝9本 縄文土器、石鎌、打製石斧、墨書土器、白磁、鉄斧、刀子、銅製帯飾り
6	平成25年	1,960 m <sup>2</sup>	不明	柱穴1基

第2図 1～8次調査の位置図



3 今回の調査成果

- ・遺構：土坑 2 基、溝状遺構 10 本、自然流路 1 本
- ・遺物：縄文時代（打製石斧）  
平安時代（土師器・黒色土器・須恵器・鉄釘）

第3図 遺構配置図

大溝の最大幅は推定 10m 以上で、深さは約 1.5m あります。地質調査により唐沢川から水を引いていたことがわかっています。

現代の掘り込み

小溝の跡 大溝の跡

大溝（水路）のイメージ

はじき水路の底から、土師器の食器が伏せられた状態で見つかりました。

旧河川のイメージ

河川の流れて運ばれた砂礫が見えます。堆積の厚さなどから、1000 年以上前から、流れていたと推定されます。

## 4 まとめ

三間沢川左岸遺跡では、平安時代前期から中期までの住居跡が見つかっており、松本市内の遺跡の中でも、屈指の大規模な集落であることがわかっています。9世紀中頃に、大規模水路が開削され、集落が展開し、10世紀終わり頃までの150年間続いたと考えられます。集落に井戸などは無く、自然流路や溝などによる導水に頼っていたことが特徴です。

昨年度からの発掘調査により、大規模な水路は後に使用されなくなり、小規模な水路が生活の中心になったということがわかりました。また、集落の東端に河川（旧鎖川・旧三間沢川）が流れており、水路の排水も兼ねていたと想定されます。

今後の調査では、水路の上流の様子や、居住域の広がり、当地を治めていた有力者の詳細などが期待できます。また、大野荘との関連についても課題が残ります。

---

わだたいしどう  
和田太子堂遺跡 第2次発掘調査

---

### 1 遺跡の概要

和田太子堂遺跡は、周辺の土地で採集された土器から、平安時代の遺跡があると考えられてきましたが、これまで発掘調査はほとんどされておらず、不明な点が多い遺跡です。

昨年度の第1次調査では、主に河川の氾濫跡が見つかり、遺跡の性格を知ることができませんでした。しかし、今回の調査により、9世紀後半の竪穴住居跡などが見つかり、三間沢川左岸遺跡とほぼ同時期の集落があったとわかりました。



調査区の航空写真（右上が北）

## 2 調査の成果

遺構： 竪穴住居跡 3 軒、土坑 45 基、溝状遺構 7 本、自然流路 1 本、  
不明遺構（溜池状遺構か）1 基

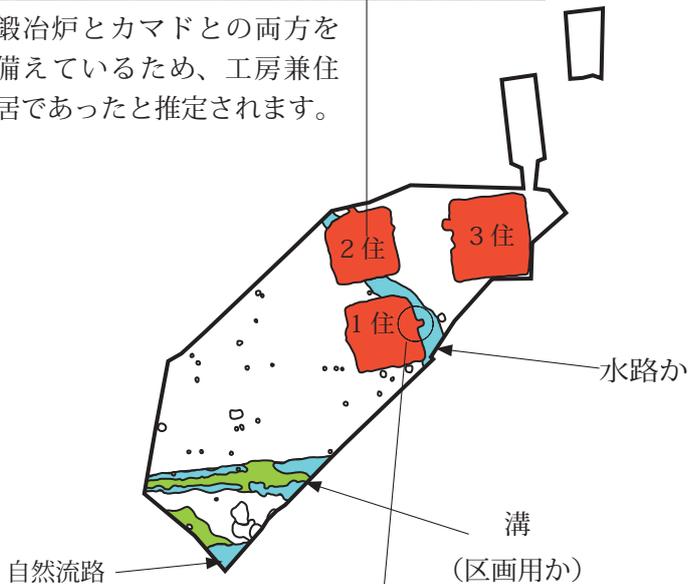
遺物： 土器（土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器）

金属（刀子 [ ナイフ ]・紡錘車 [ 糸を紡ぐ道具 ]・鍛造剥片 [ 鍛冶の際に出る細かい鉄屑 ]）

石器（砥石・台石 [ 作業台 ]・コモ石 [ 編み物用の錘 ]）



鍛冶炉とカマドとの両方を備えているため、工房兼住居であったと推定されます。



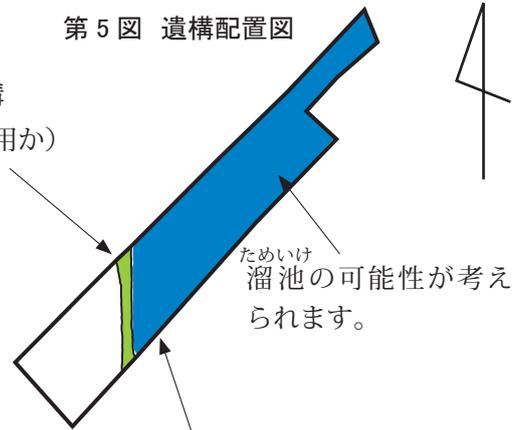
第 1 号竪穴住居跡 (1 住)



カマドの石組みが残っている竪穴住居跡です。

第 5 図 遺構配置図

溝 (区画用か)

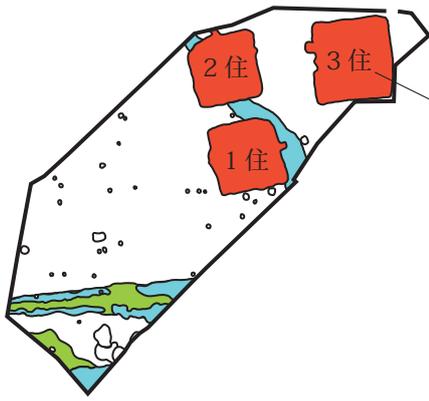


2 住出土。黒色土器の杯の裏側に「蔵？」と墨書されています。



鳥形（オシドリか）の銅製品。

製作時期は不明ですが、もし他の遺物と同時期なら、非常に貴重な出土例となる可能性があります。



第3号竪穴住居跡（3住）



多量の土器が出土した竪穴住居跡です。



土圧で押し潰された状態で出土した大甕。  
おおがめ



参考：同時期の大甕（北方遺跡出土品 [ 松本市立考古博物館展示品 ]）  
きたがた



完形の壺や杯、碗などが多数見つかりました。

今回見つかった住居跡はいずれも一辺が5.0～6.0mもある大型のものです。市内の同時期の遺跡では、一辺3.0～4.0mのものが多数を占め、集落の中心に大型住居（最大で一辺10.0m近くあるものも存在）が位置することがよくあります。当遺跡の大型住居跡は集落の縁辺部で見つかりましたので、多くの他遺跡とは違う特徴をもつ集落かもしれません。

住居跡から北東に位置する不明遺構は、現地表から深さ65cm程で、底部分には水漏れ防止と思われる水田の床土に似た土が約5cm堆積しており、溜池のようなものであった可能性があります。また、人為により短期間に埋められた痕跡も確認できました。

### 3 まとめ

今回の調査により、和田太子堂遺跡は9世紀後半（平安時代前期）の集落跡であるとわかりました。集落の南東部には三間沢川左岸遺跡の発掘調査で見つかった旧河川が流れていると考えられます。また、その近辺で、鉄器を生産または修復していた工房跡や比較的大きな規模の住居跡が見つかり、出土遺物の量が著しく多く、残りのいいものが多数あります。集落の縁辺には、東西と南北に延びる溝が確認でき、集落を区画するために設けられた可能性があります。

集落のほんの一部しか発掘調査していませんので、遺跡のイメージを描くにはまだ難しい状況です。発見された住居跡の時代から、三間沢川左岸遺跡の最盛期頃であり、隣接するこの大集落との関係があるかもしれません。

## 事例報告②

# エリ穴遺跡-縄文時代のまつりの場

## 1 エリ穴遺跡の概要

松本市内田に所在し、1995年発掘調査、2012年～2018年3月整理作業・発掘調査報告書刊行予定。

縄文時代中期～晩期（約5,000年前～約2,500年前）の集落。竪穴住居・敷石住居は中期10軒、後期13軒、晩期8軒存在する。また、配石や祭祀に関連する遺物・耳飾が集中する廃棄場（まつりの場）がある。松本盆地で後期後半～晩期中葉の住居が確認できたのは、エリ穴遺跡のみ（ちなみに、この時期の集落の可能性があるのは、エリ穴以外では女鳥羽川〔松本市元町〕、離山〔安曇野市穂高〕、宮下〔池田町〕、一津〔大町市〕だけ）。

## 2 整理作業の概要

図面・写真・発掘記録の整理

遺物の整理 : 水洗、注記、仕訳、接合、復元、実測、撮影  
報告書作成

## 3 縄文時代後期～晩期の注目すべき遺物

【石器】 石鏃 5456点、磨製石斧 242点、打製石斧 569点、凹石・磨石・敲石 654点、砥石 478点など。

【土製品・石製品】 土製耳飾 2578点、土偶 425点、土版 4点、手燭形土製品 6点、石剣・石刀・石棒 206点、石冠 5点、垂飾 26点など。

【土器】 コンテナに 387箱。大量の無文粗製土器（深鉢）と、少量の有文精製土器に区分できる。精製土器は、深鉢・浅鉢・鉢など一般的な容器（煮沸も可能）と、単なる容器とは異なる異形の土器（まつりの道具）がある。異形の土器では注口土器、異形台付土器、釣手土器、香炉形土器、多孔底土器などが目立つ。

今回は石鏃と縄文後期土器を展示しています。

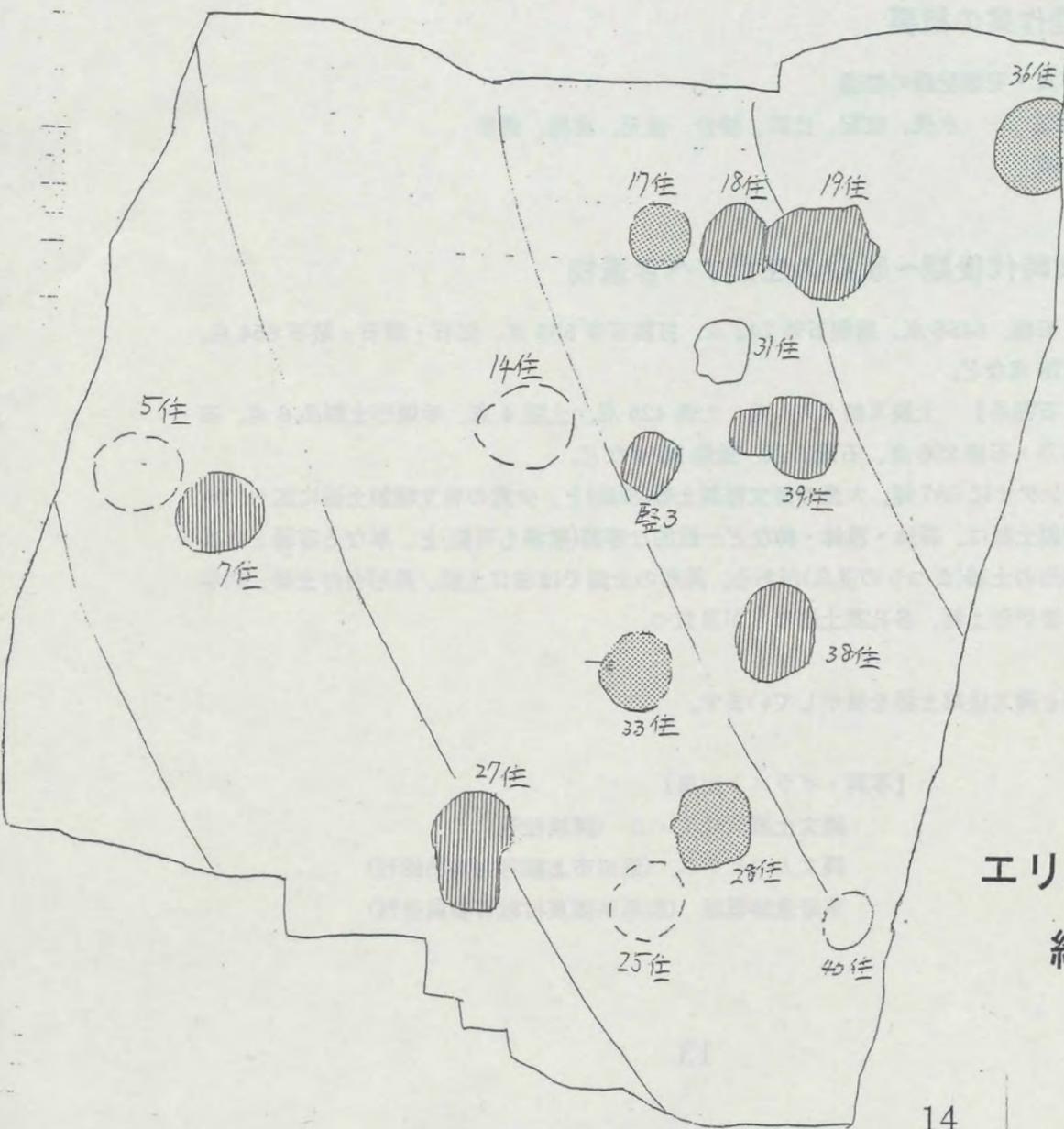
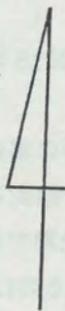
### 【写真・イラスト出典】

縄文土器大成 4・5 （講談社刊）

縄文人のピアス （飯田市上郷考古博物館刊）

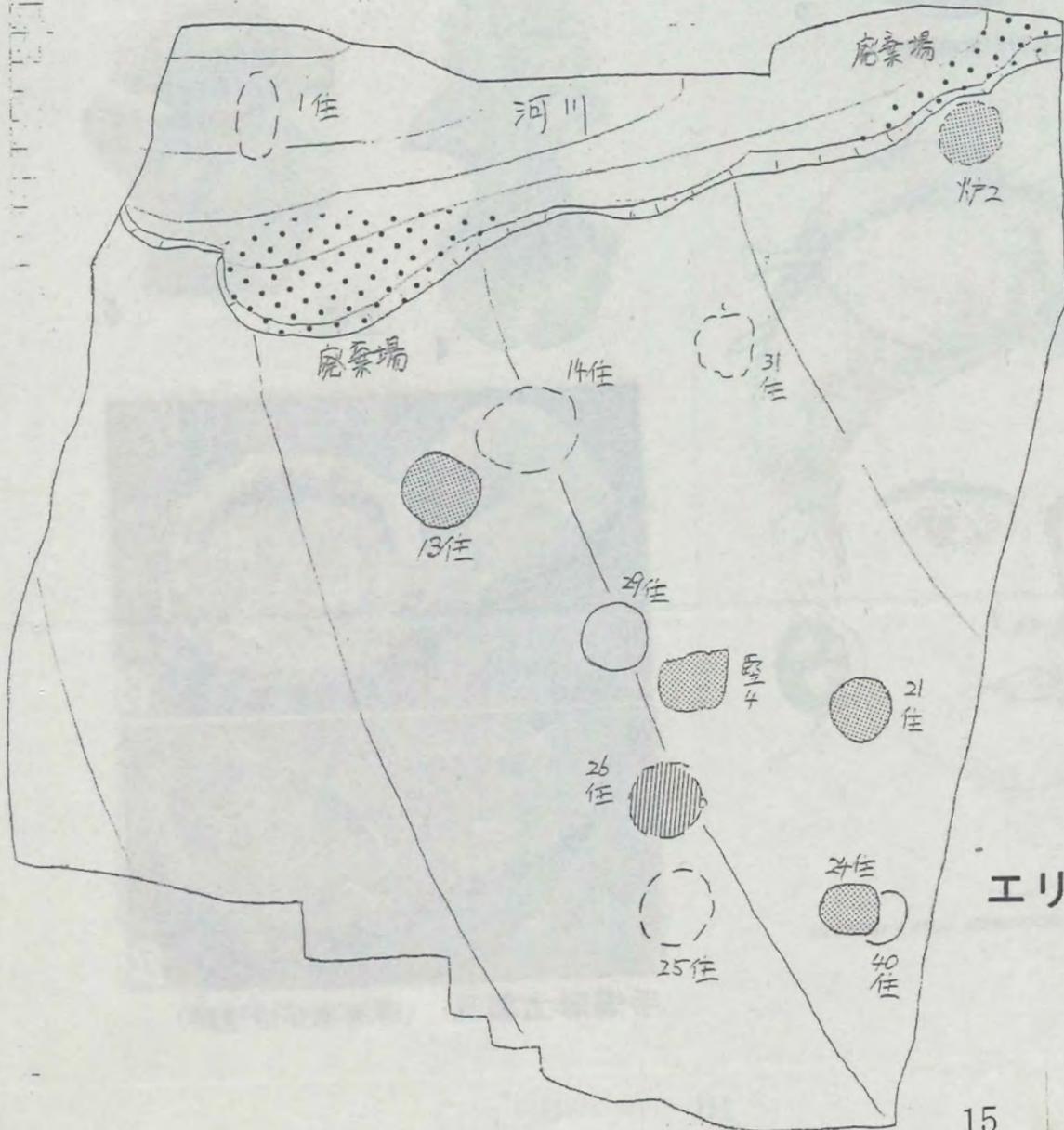
茅野遺跡概報 （群馬県榛東村教育委員会刊）

エリ穴遺跡の縄文時代後期



- 前葉 (Vertical line hatching)
- 中葉 (Cross-hatching)
- 後葉 (Stippled hatching)

エリ穴遺跡見取図  
縄文時代後期

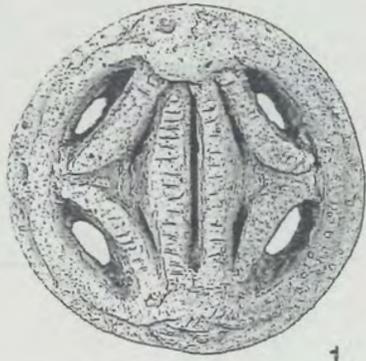


0 30m

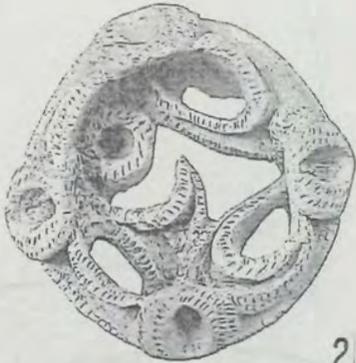
- 前葉
- 中葉
- 後葉

エリ穴遺跡見取図  
縄文時代晩期

土製耳飾り



1



2

(長野市宮崎遺跡)



土製耳飾りをつけた縄文人 (イラスト 白居直之氏)

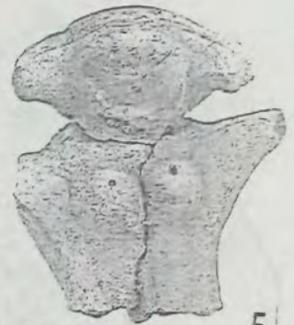
人面付土版



3



4

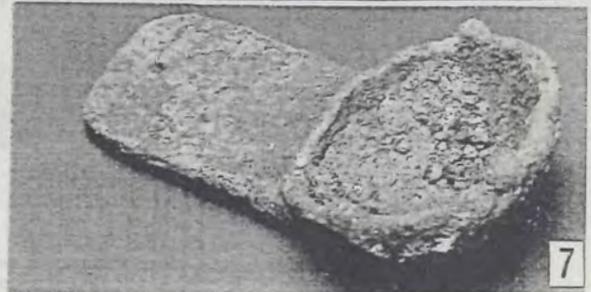


5

土偶



6



7

手燭形土製品 (群馬県茅野遺跡)

注口土器



8

注口土器 堀之内1式 東京都広持遺跡 高13.5cm



9

注口土器 堀之内2式 千葉県加曾利北貝塚 高12.2cm

注口土器 十腰内5式 (左)青森県長久保遺跡 高10.9cm



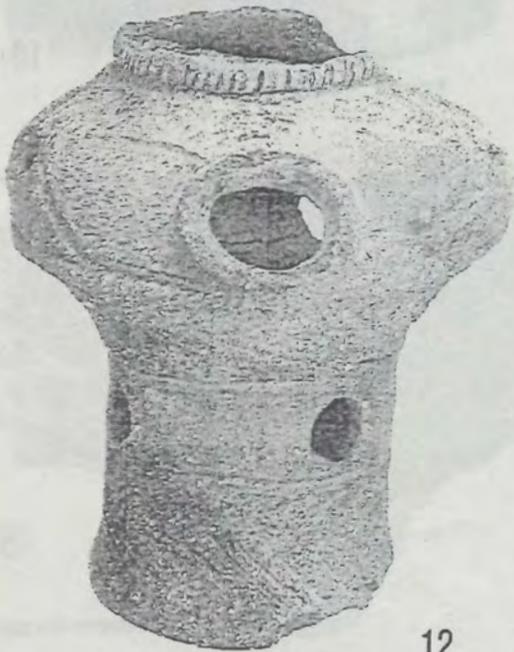
10



11

注口土器 大洞B-C式 青森県三戸郡 高10.6cm

異形台付土器



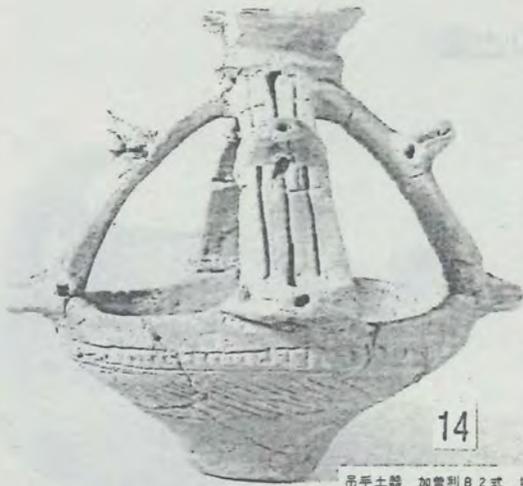
12



13

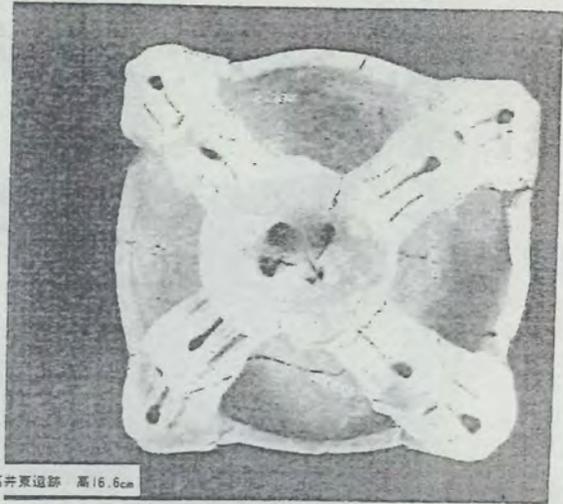
異形台付土器 先行2式 千葉県天神宮遺跡 高12.9cm

釣手土器



14

吊手土器 加曾利B2式 埼玉県高井原遺跡 高16.6cm



15

吊手土器 加曾利B2式 栃木県内 高32.8cm



16

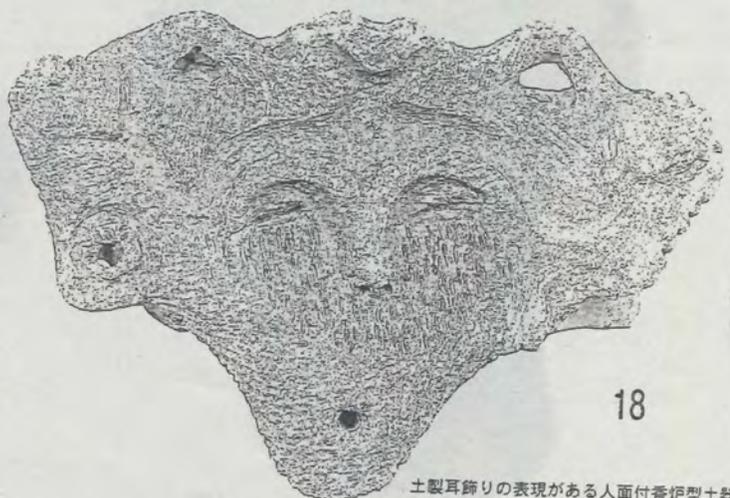
香炉形土器 十勝内5式 青森県原別遺跡 高12.6cm

香炉形土器



17

229 香炉形土器 大洞B式 青森県是川中居遺跡 高11.7cm



18

土製耳飾りの表現がある人面付香炉型土器

## 松本城三の丸跡土居尻第5次調査

### 1 調査の概要

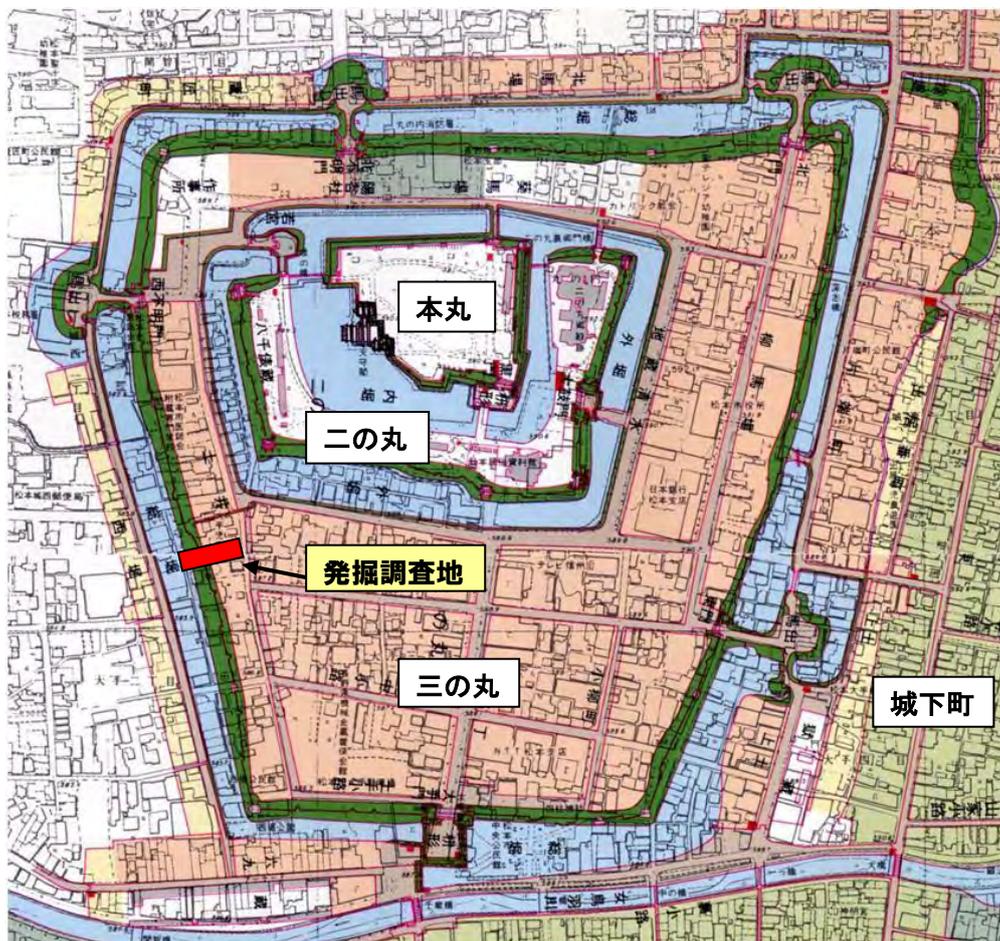
- (1) 遺跡の所在 松本市大手2丁目8-18ほか
- (2) 調査の目的 松本城南・西外堀復元事業及び内環状北線整備事業の代替予定地の開発に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間 平成26年4月23日～11月20日
- (4) 調査面積 平面積431m<sup>2</sup> (I～V検のべ調査面積1,177m<sup>2</sup>)

### 2 調査地の概要

#### (1) 調査地の位置

松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それぞれを囲む3重の堀（内堀・外堀・総堀）で構成される城郭部分と、その外側に位置する城下町で成り立っています。三の丸には、家老をはじめとする家臣の屋敷があり、東・西・北には馬出し・門が設けられ、南には大手門枡形門が設けられていました。

今回の調査地は、三の丸西側中央にあたり、江戸時代の絵図から武家屋敷・総堀・土塁にあたります。



調査地の位置

(2) 絵図からわかること

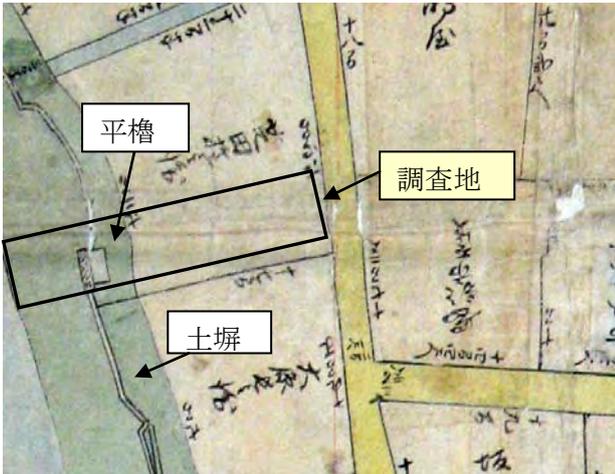
ア 調査地西半部は、総堀と総堀土塁 ⇒城郭の防御施設

調査地西半部は、三の丸を防御のために囲う総堀の一部と、堀の内側にあった土塁にあたります。絵図をみると、土塁上に土塀が巡り、調査地付近には平櫓があったことがわかります。

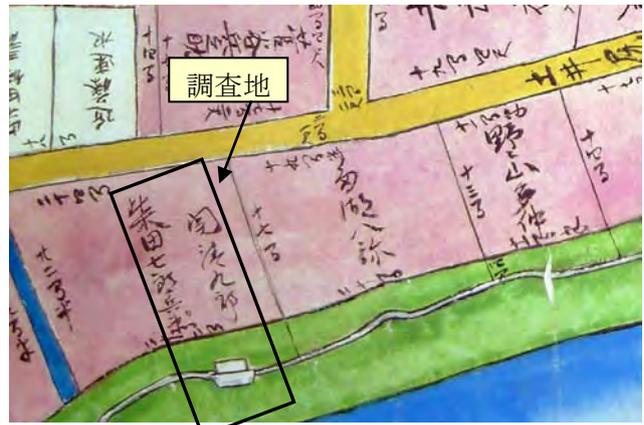
イ 調査地東半部は武家屋敷 ⇒家臣の屋敷地

調査地東半部は、松本藩の家臣が住んでいた武家屋敷にあたります。享保から安政5年(1716~1860)には、柴田氏、安政5年から幕末まで(1860~1867)は、関氏が住んでいました。柴田氏は郡奉行・勘定奉行・町奉行を兼任、関氏も郡奉行・町奉行を兼任しており、いずれも奉行という要職についていた家臣であったことがわかります。

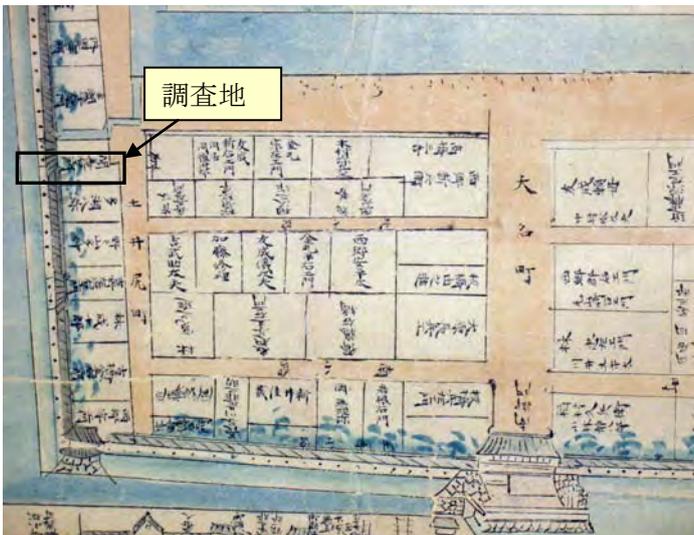
⇒調査地は、松本城の城郭と家臣の武家屋敷という2つの要素



享保十三年秋改松本城下絵図(1728)より



天保六年松本城下図(1835)より



維新前松本藩士族屋敷割図より



文化・文政期(1804~29)の絵図より

### 3 調査の成果

#### (1) 調査地西半部について

ア 土塁の盛土は、ほとんど削平されていましたが、基盤となる土層が残っていたため、土塁幅は約16mであることがわかりました。

イ 土塁の堀側裾部では、297本の木杭が出土しました。これまでに行われた総堀の調査でも木杭が確認されているため、当時は総堀全体に杭が設置されていた可能性が高いと考えられます。

#### トピックス

今回発見の杭の密度 ⇒ 1mあたり27.5本

総堀全周3.6km 全体本数の試算 = 99,000本

#### ウ 杭列について

この杭は何のために設置されたのでしょうか？

これまでの調査でも、先が尖っている杭が確認されていたことから、『大坂冬の陣図屏風』に描かれているような、堀際に設けられた防御用の杭と推定されています。



杭列の出土状況（東より全景）

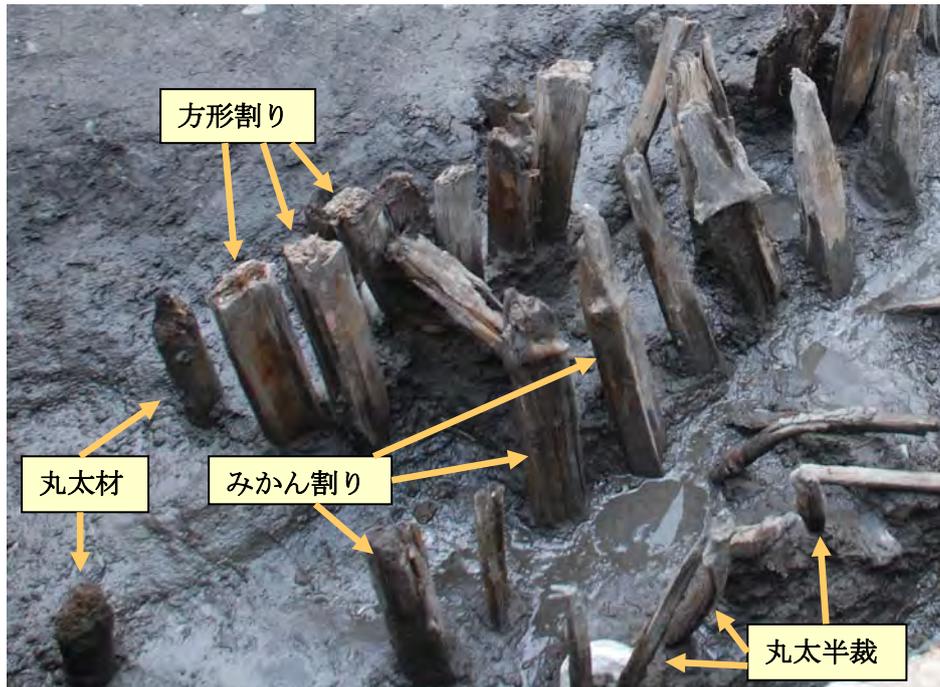


杭の出土状況（北端部・東より）  
奥が総堀・手前が土塁



杭の出土状況（北西隅より）  
奥が土塁・手前が総堀

## 杭の形状・形態にバラエティーがある



みかん割り：太い材を使用、土中部分が深いものが多い。

方形割り：みかん割りを更に割ったもの。太い材を使用し、土中部分が深いものが多い。

丸太材：芯持ちの太い材を使用（木皮が付いているもの多数）、土中部分が最も深い。

丸太半裁：細い丸太材を使用し、半裁したもの。土中部分は浅い。

転用材：柱材を転用したもので、数は少ない。柱を調整した手斧の痕跡が確認できる。

⇒ 形状の違い・分布から、それぞれの用途・ねらいがあるのではないか

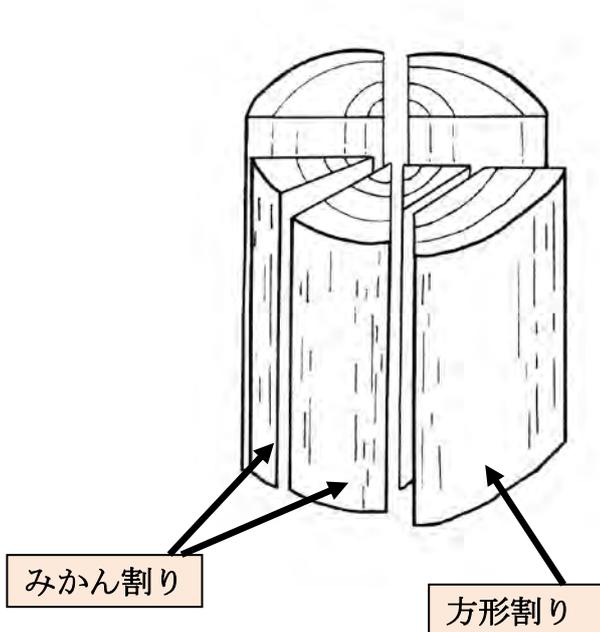
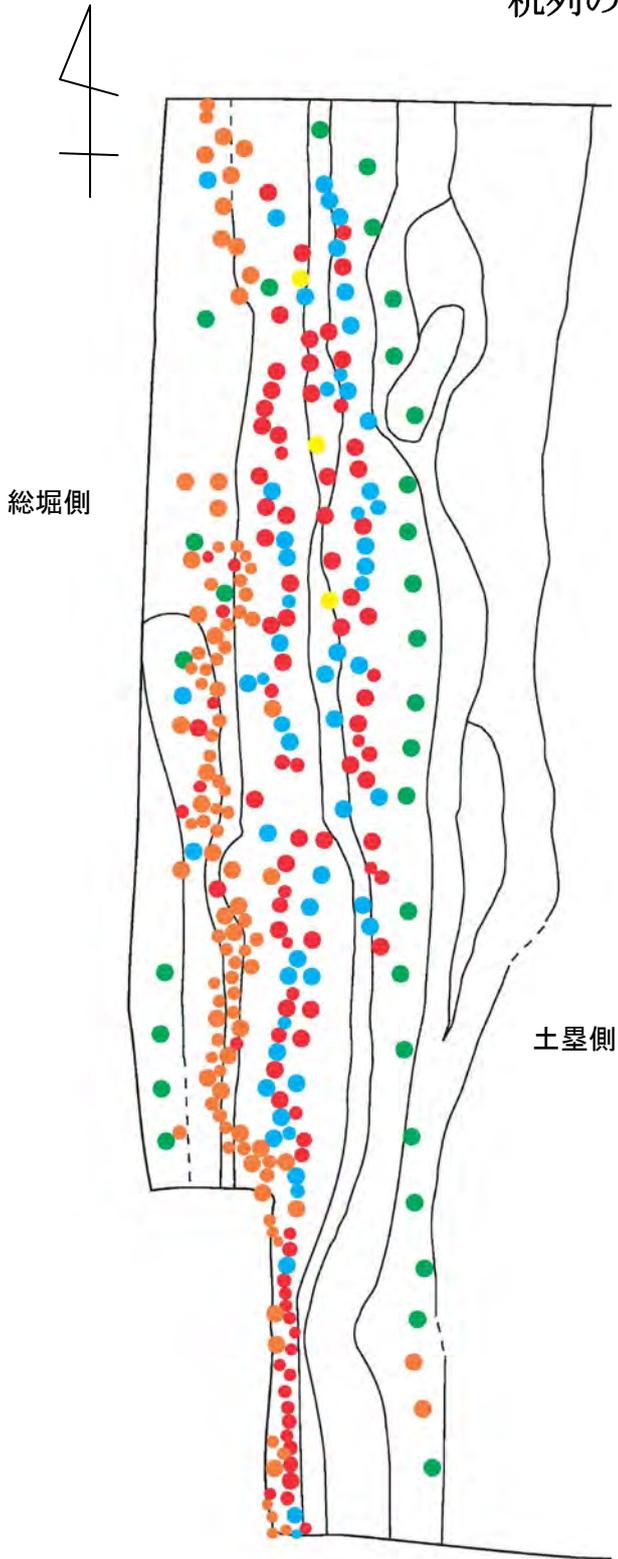


写真) 左からみかん割り、丸太半裁、方形割り、丸太材

# 杭列の分布状況



杭の種別分布図

【凡例】			
● (Red)	: みかん割り	● (Orange)	: 丸太半裁
● (Blue)	: 方形割り	● (Yellow)	: 転用材 (柱材など)
● (Green)	: 丸太材		

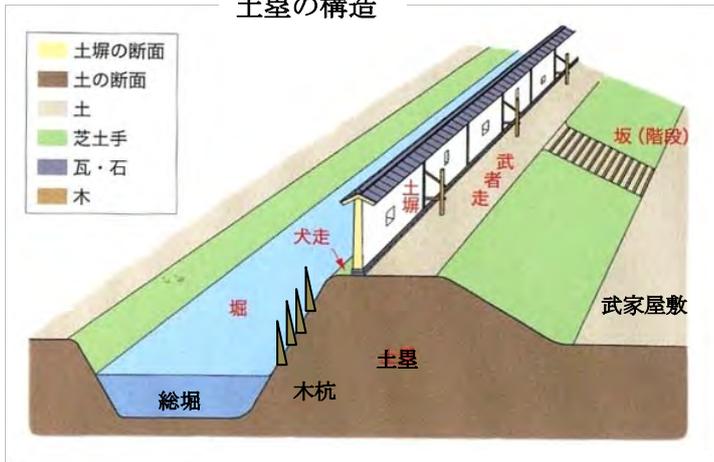


杭の出土状況写真



杭の断ち割り状況 (掘り方は無い)

## 土塁の構造



『城のつくり方図典』小学館 一部改変して転載

堀の内側には、堀を掘った土を掻き揚げて盛った土塁がありました。土塁は堀に沿って堤防状となり、上に土塀を掛けます。今回発見された杭は、土塁の裾部に位置しています。土塁の内側には、武家屋敷がありました。

## エ これまでの松本城総堀跡で発見された杭



東総堀（市役所東庁舎脇）の調査（土塁と杭列）



東総堀で発見された杭列



東総堀（片端側）での発見



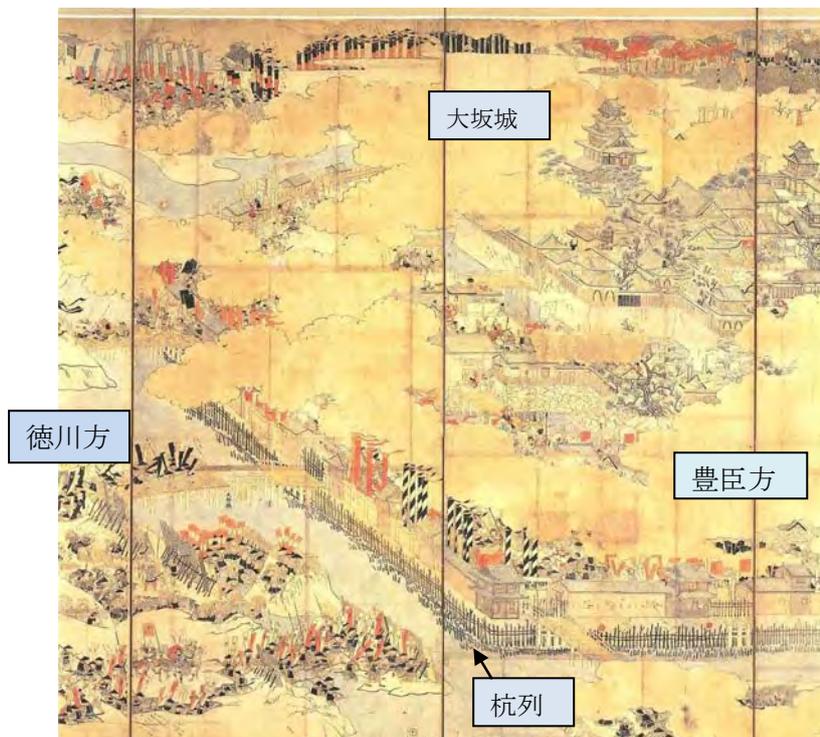
西総堀土塁での発見

## オ 米沢城での発見例

米沢城（山形県）の内堀の調査で発見された木杭 ⇒ 松本城の発見例と同様に、土塁裾部に位置していたもの



米沢城から出土した杭



「大坂冬の陣図屏風」に描かれている杭列  
土塁堀側裾部に杭や柵が設けられている様子がわかります。  
大坂冬の陣の戦いは、慶長19年（1614）年に行われました。

「大坂冬の陣図屏風」(部分)

## (2) 調査地東半部について

ア 戦国時代から江戸時代までの人為的に土を盛って造成したあとが4層見つかりました。ここからは建物跡・水道遺構・ゴミを捨てた穴・溝など、武家屋敷内の遺構が多数発見されました。また、こうした遺構から出土した遺物は、日常生活に使う生活用具（食器・調理具・文房具など）のほか、茶道具（茶碗・茶入・向付ほか）や鳥の餌入れ、化粧道具（鬢水入れ・櫛・紅猪口）などがみられ、武士の暮らしの風流な一面もうかがえます。

イ 第IV面は土塁盛土の下層にあたり、土塁構築以前の生活面です。第IV面からは、16世紀後半～末の遺物が出土しており、土塁の構築時期を検討する上で重要な資料を得ました。

ウ 最下層の第V面では、平安時代の遺構・遺物が発見されました。中心市街地では、初めて平安時代の遺構・遺物が発見され、松本の古代史解明に重要な資料を得ました。

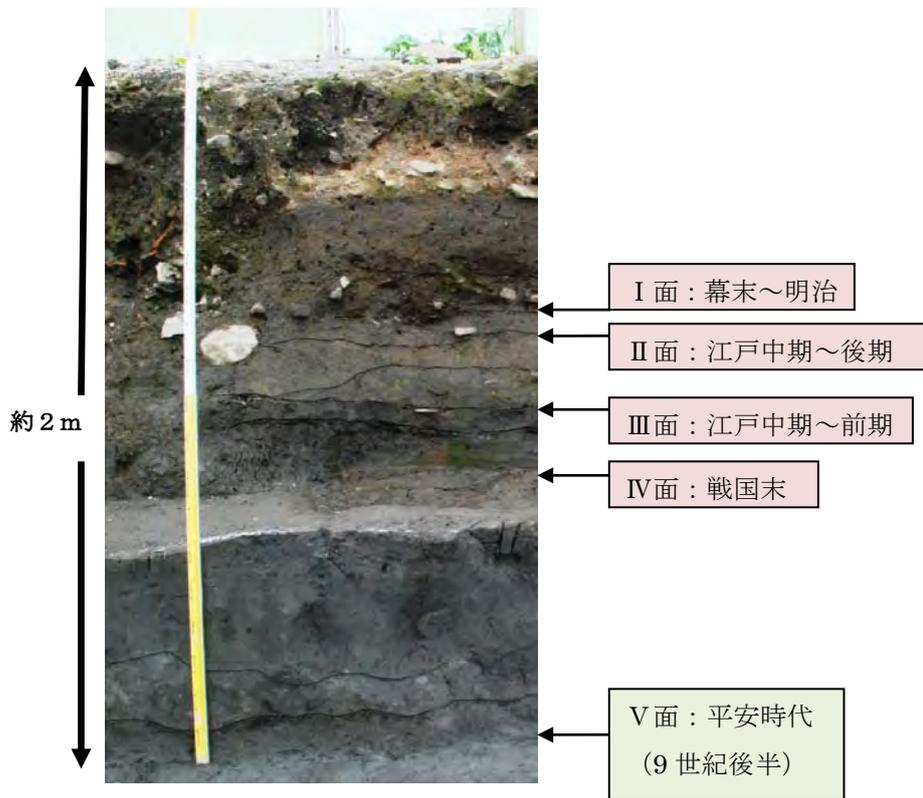


江戸時代にすでに整備されていた水道  
高低差のみで配水するもの



埋設された桶（用途は不明）

### 調査地土層柱状写真



第II面の全景（建物の礎石）



第V面の全景（平安時代の溝）



ゴミ穴から出土した漆椀と下駄



整地層から出土した陶磁器（肥前産・美濃産）

## 4 今後の課題

- (1) 今回出土した杭のうちの約100点について、独立行政法人 奈良文化財研究所が樹種・年輪年代測定を行っています。杭がどのような樹種で、いつ伐採されたものなのか、などの分析結果が待たれます。この結果から、杭が設置された時期や総堀がつくられた時期などを検討することができます。
- (2) 松本城は、国宝に指定されている天守が注目されていますが、もともと三の丸を含めた城郭と城下町全域に、軍事的要塞としての様々な機能が備わっていました。今回の発掘調査で検出された土塁・堀・杭列などは、その一端をうかがい知ることができました。今後も発掘調査が進めば、これまで知られていなかった松本城の姿が発見される可能性があります。

## 井川城跡第 2 次発掘調査

### 1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在 松本市井川城 1 丁目
- (2) 調査の目的 井川城の範囲と内容を確認するための学術調査
- (3) 調査期間 平成 26 年 4 月 14 日～継続中
- (4) 調査面積 約 850 m<sup>2</sup> (対象面積：約 7,000 m<sup>2</sup>)

### 2 遺跡の概要

井川城跡は、信濃守護小笠原貞宗（1292-1347）が建武年間（1330 年代）に伊那郡松尾（現在の飯田市）から居館を移した「井河の城（館）」と推定される遺跡です。

遺跡に関する文献は限られますが、1724 年に松本藩がまとめた歴史書『信府統記』では城館の規模や特徴について、「四方に流れ（堀）」、「東西 40 間（約 70m）、南北 56-7 間（約 100m）」の範囲、「東に虎口（門）」、「矢倉（櫓）台の跡」等が記されています。このうち、櫓跡と伝えられる箇所は昭和 42 年に松本市の特別史跡に指定されています。

平成 25 年度に初めて発掘調査を行い、門の可能性がある礎石建物や土塁の可能性のある盛土、堀の痕跡等の遺構や 15 世紀代の遺物を確認したことにより、記録にある「井河城」の存在が有力になりました。

### 3 2 次調査の成果

今回の調査では以下の成果がありました。

- (1) 居館推定範囲の北東に 15 世紀代の遺構・遺物を確認（図 2・5、写真 2）
- (2) 居館推定範囲の東側には堀（水路）が三重に巡る（図 2・3・5、写真 3・4）
- (3) 居館推定範囲内は遺構面が 5 面あり、造成が繰り返し行われている（図 4）
- (4) 居館推定範囲に礎石建物等の遺構を確認、威信財も出土（図 4）
- (5) 居館推定範囲の南端が確定、特別史跡は土塁推定位置に収まる（図 2・5）
- (6) 居館推定範囲の南西隅を確認、居館形態は隅丸長方形か（図 2・5、写真 5）

### 4 まとめと課題

今回までの調査により「井河城」と推定される場所に堀や土塁を備えた大規模な遺跡があることわかりました。威信財も認められ、有力者の存在が裏付けられることから、伝承にある「井河城」の可能性は高まりましたが、「信濃守護」や「小笠原」を裏付ける居館や政治の痕跡を示す遺構はまだ確認できていません。

また、『信府統記』に記された範囲外にも同時期の遺構が広がることから、居館の範囲や構造がより複雑なものになる可能性があります。

2 年に及ぶ調査の目的は「居館の範囲と内容の確認」のため、周辺域との関係は迫及できませんが、城域が広がる可能性と共に、伝承にある「井河城」に馳せる想いも広がっていくように思えます。

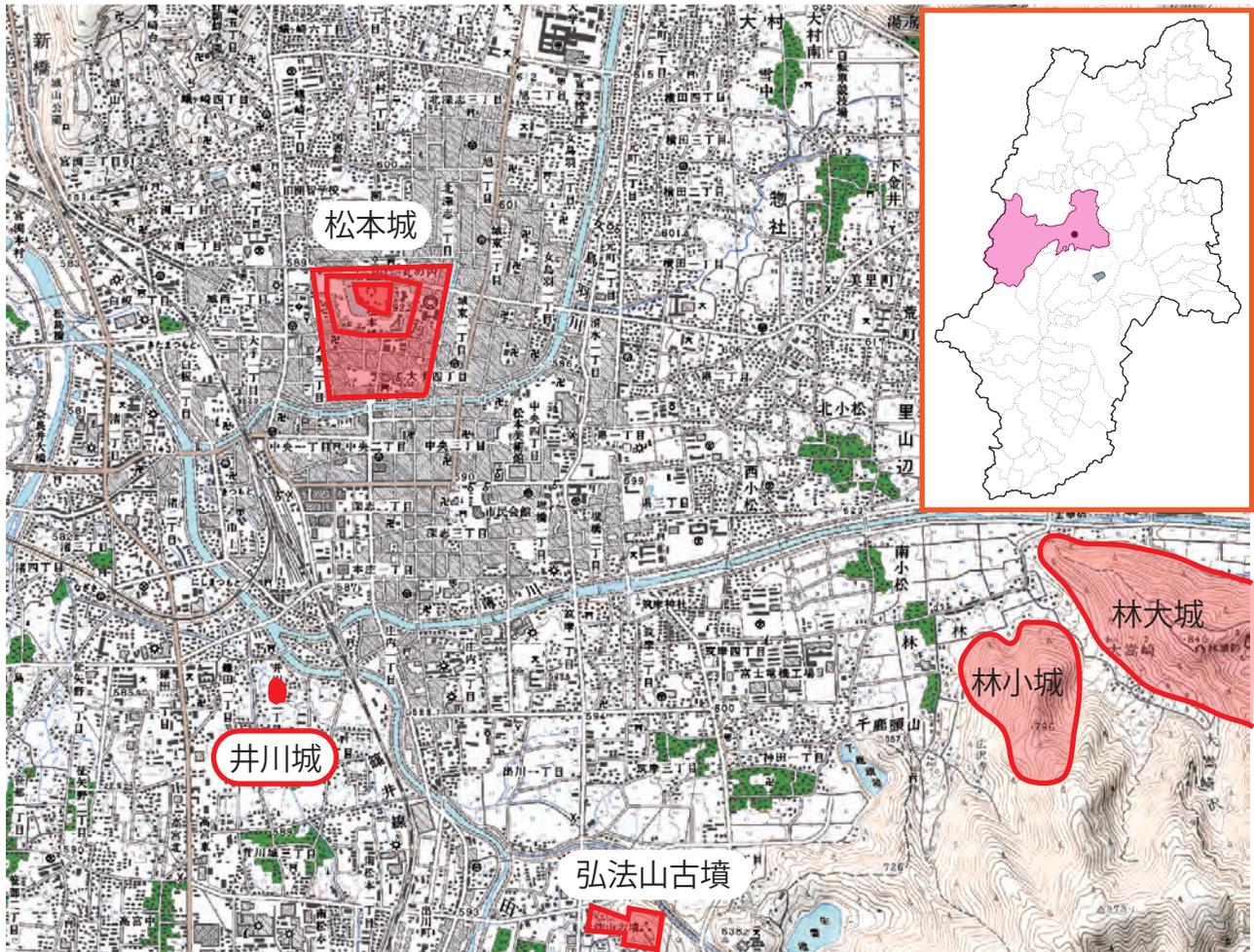


図1 井川城の位置とその周辺（縮尺不定）



写真1 井川城航空写真（左が北）



図2 井川城跡調査位置と概要

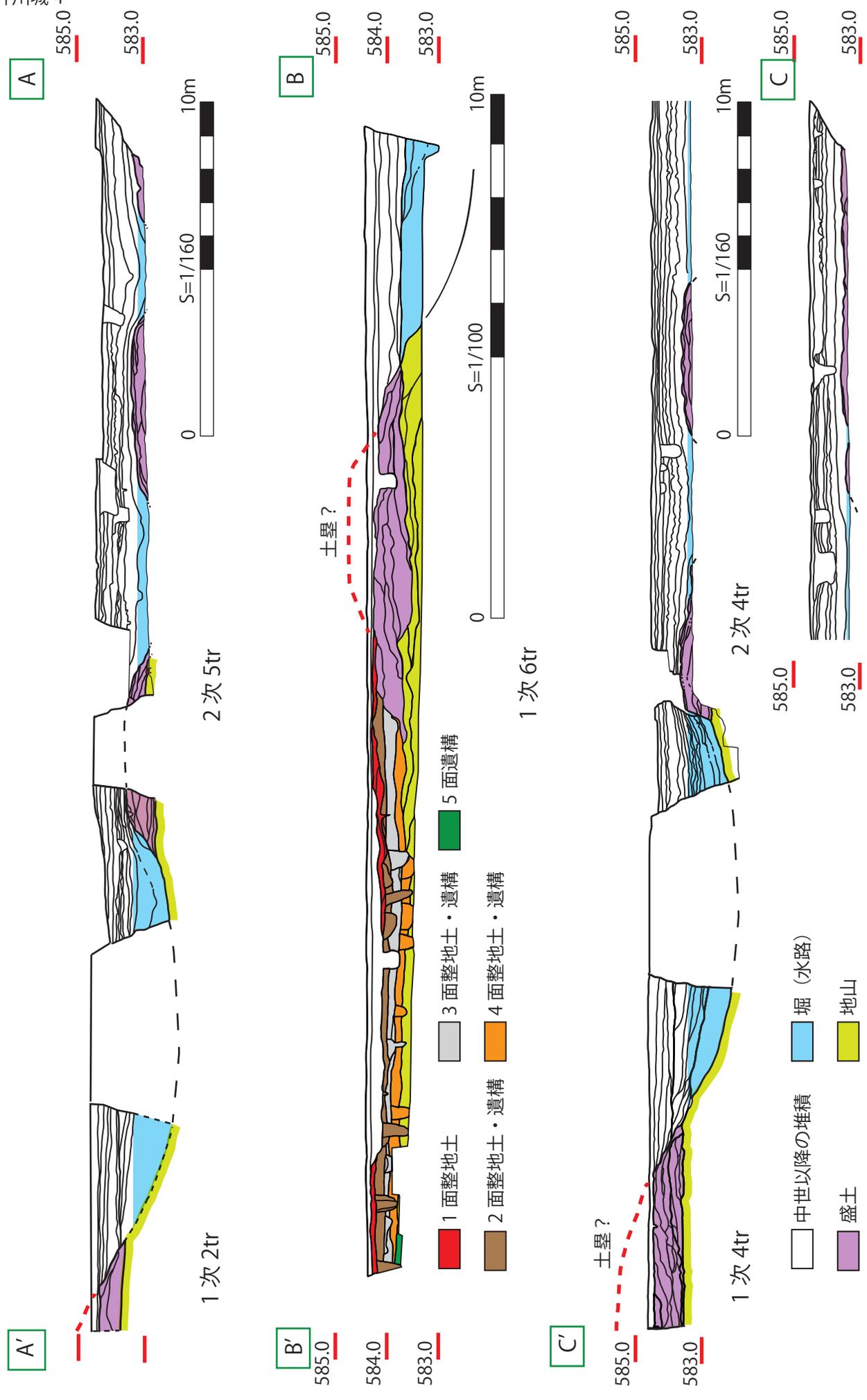


図3 井川城跡断面図



土層



土塁状の盛土



盛土の粘土



ピットと地山



盛土の中の板

2 トレンチ



全景



杭などの遺構



ピットの中の木材

3 トレンチ

写真2 2次調査2・3 トレンチの様相

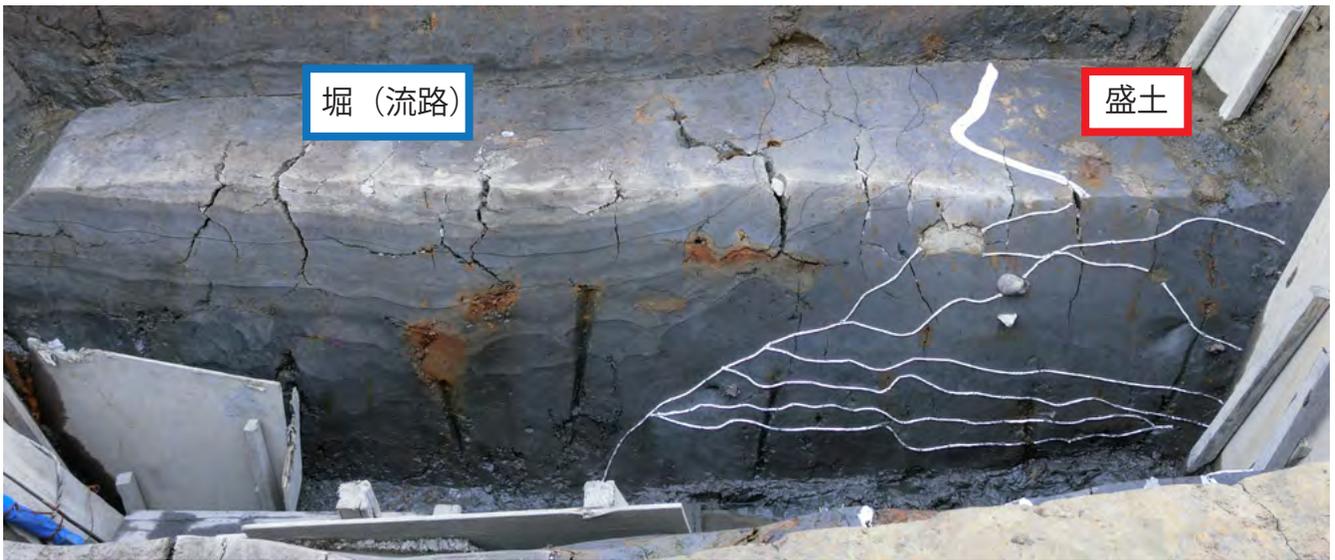


写真3 2次調査5トレンチの断面



1次調査4トレンチの堀岸



盛土の断面 (北から撮影)



写真4 2次調査4トレンチの様相 (東から撮影)

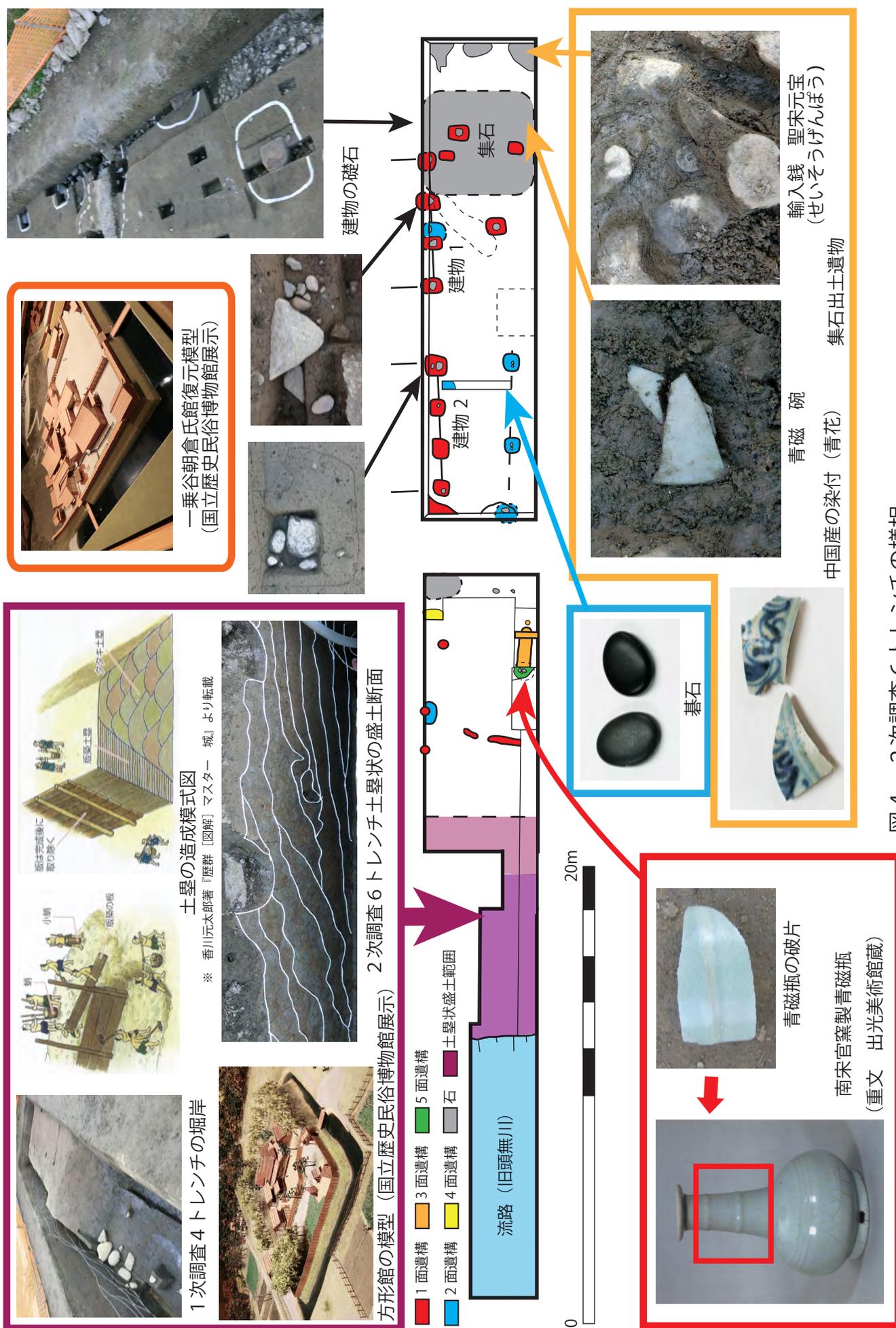


図4 2次調査6トレンチの様相



写真5 2次調査7トレンチ全景 (南西から)



図5 「井河城」想像図